

台風災害後の電話訪問

産科病棟より

平成28年8月31日の台風10号により断水や道路の崩壊などの大きな災害が発生しました。大変な思いをした方がいましたが、普段の生活に戻ることができているようで安堵しています。

昨夏、新潟で開催された『母乳育児シンポジウム』の中において、災害時の電話訪問により母子の不安の軽減ができたとする、熊本地震被災地からの報告もあったことから、私たちは褥婦・新生児の安否確認も兼ねて電話訪問を実施しました。

対象は、災害発生より6か月前に出産した褥婦(平成28年3月1日～8月31日に出産した方)、居住地が十勝管内・日高・占冠村の方としました。分娩を担当した助産師が電話で状況確認をしました。

分娩総数(H28年3月1日～8月31日分娩)	110人
電話訪問対象者数	99人
連絡がついた褥婦	90人
被災した褥婦	23人



【被災の内訳】

- ・断水 15人
- ・避難 13人(うち、実家や親戚の家へ避難 8人)
- ・畑等が浸水 5人 ※ 重複あり。

9月2日、病院として入院についての対応が決まり、清水・新得の断水、道路状況不良に伴い、妊婦は陣痛がなくても希望があれば医師の判断のもと入院が可能。褥婦の入院継続希望者はベッド状況で延長可能となりました。切迫早産の妊婦で自宅の断水により、入院延長を希望された方がいました。

妊婦健診時には、「十勝管外から里帰りしてきたが、実家が被害に遭い、こんなことなら自宅に居たら良かったかな」と嘆く声や、「37週だが、里帰りを検討」「被災していない実家へ避難中」などの相談や、困っているという声がありました。しかし、実際に転院した方はいませんでした。

被災された方の中には、災害により母乳が出なくなった方はいませんでした。飲料水が無い・人工乳を作るのに困ったなどという声もありませんでした。

遠方へ避難した方で、2週間健診の来院ができなかった母子がいましたが、避難先の保健センターで児の体重測定を行い、その後の電話連絡で、母子の様子を確認させていただきました。

電話訪問時、「病院は無事でしたか?」「電話をもらって安心しました」という被災された方からの声を聞き、担当助産師と母の『顔の見える関係』『繋がり』を実感し、それが芽室病院らしい、地域に根ざした産科であるように思えました。

今後も、BFH(Baby Friendly Hospital:赤ちゃんにやさしい病院)として、母子に寄り添い、妊娠期から産後まで継続した支援をしていきたいと考えています。



眼科 視野検査

ホームページアドレス <http://memuro.com>

または芽室町ホームページのトップページからアクセスできます。



当院では、インフルエンザ、感染性胃腸炎(ノロウイルス)など、十勝管内または芽室町内において罹患者数が増加の傾向にあるとき、入院患者に対する面会制限を実施しています。無用な感染症を避けるため、下記の点についてご協力とご理解をお願いいたします。病院の出入り口、エレベーター入口、病棟入口に掲示しますので、ご確認ください。

面会制限

1. 面会を制限させていただく方

- (1)入院患者の家族以外の方
- (2)入院患者の家族で中学生以下の方
- (3)入院患者の家族で次の症状がある方
 - ア 発熱、せき、鼻水、咽頭痛など風邪の症状がある方
 - イ インフルエンザなど感染症の可能性のある方



2. 留意事項

- (1)入院患者さんをお守りするため、面会される家族の方も面会時は、
 - ①マスク着用
 - ②手指消毒
 - ③手洗い励行をしてください。
- (2)マスクは、売店または事務受付にて販売しています。

3. 流行の状況によって、面会禁止の措置を取らせていただくことがあります。その場合は、受付窓口か各ナースセンターでご確認ください。

めむろ☆育児サークル「はぐ Hug」のご案内



- ・妊娠中の方、子育て中の方、そのご家族などどなたでも参加OK
- ・助産師・保育士も毎回参加しています。妊娠中から出産後の疑問、不安なこと気軽に何でもきくことができます。

■場 所 公立芽室病院 3階研修室
■日 時 毎月第1・第3水曜日 (10時30分～11時30分)

■参加費 100円

予定しているテーマ

2月15(水) 子どもの発達を助けるかわわり方

☆インフルエンザ感染予防のため、中止になることがあります。お電話かHPでご確認のうえ、お越しください。

3月1日(水) ママカフェ「子育て座談会」

3月15日(水) ママのための産後ヨガ ゆっくりとした呼吸に意識を向けて、体を緩めていきませんか?